

本日の内容

- 1. 大保木地区の被害想定
- 2. 災害のイメージ(ビデオ・写真)
- 3. 災害への備え 情報の伝達 避難対策

1.大保木地区の想定される災害

・台風災害

平成16年台風第21号 死者 5 名(大保木地区 2 名) 災害復旧額 1 7 0 億円

・南海トラフ地震

今後30年以内に発生する確率70%~80% (南海トラフ巨大地震:土砂災害危険度ランクA)

活断層 (川上・小松断層) による地震 例:阪神淡路大震災、熊本地震、

・山林火災、ゲリラ豪雨・・・

西予市





肱川が氾濫し、野村地区 が水没 死者5名





宇和島市 H30年7月豪雨





台風21号の爪あと

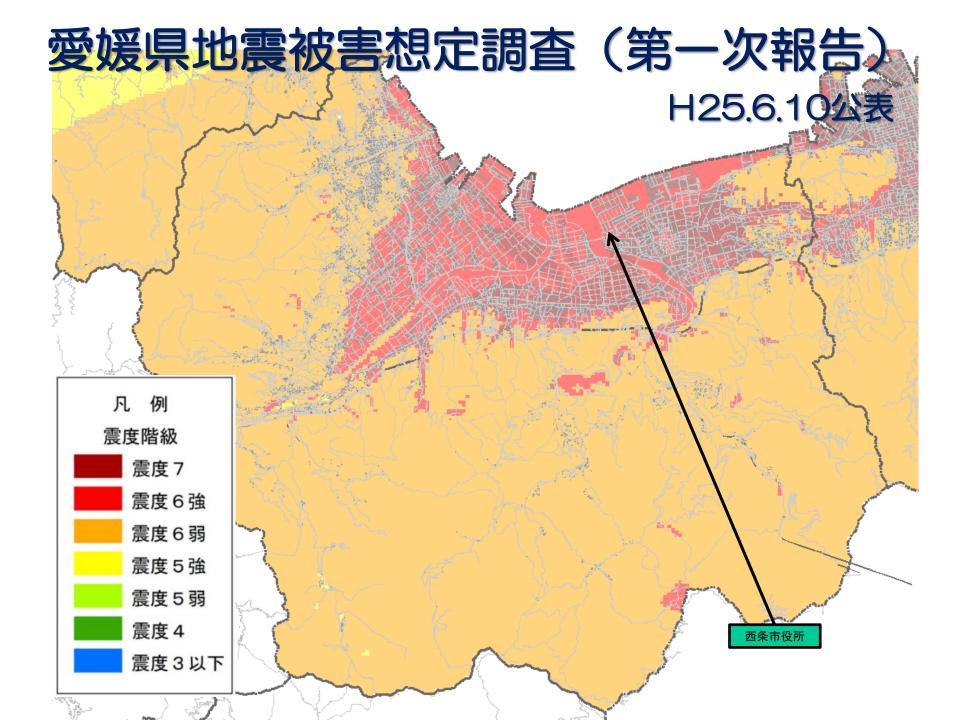




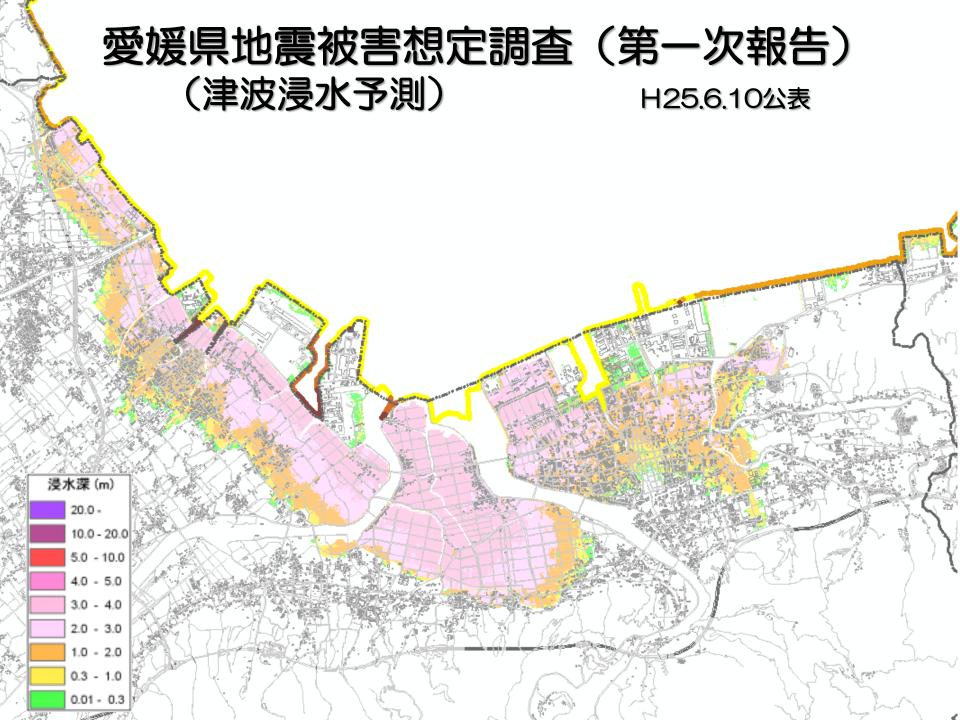








愛媛県地震被害想定調査(第一次報告) H25.6.10公表 南海トラフ大地震の液状化危険度(PL値)分布 (5ケースの重ね合わせ) 凡例 PL値 ■ 極めて高い(30<PL)</p> かなり高い(15<PL≦30) 高い(5<PL≦15) 低い(0<PL≦5) かなり低い(PL=0) 西条市役所



各想定地震による西条市の震度・液状化・土砂災害の想定結果(西条市) 愛媛県地震被害想定H25.6.10公表

NI	担心业品	a	液状化	急傾斜	山腹崩壊	地すべり		
No	想定地震	震度	(PL値)			砂防	森林	農地
1	南海トラフ巨大地震(M9.0)	7	77	Α	Α	Α	Α	Α
2	芸予地震(M7. 4)	6弱	41	Α	В	В	В	В
3	讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部 の地震(M8. 0)	6強	64	A	A	A	A	В
4	石鎚山脈北縁の地震(M7.3)	6強	69	Α	Α	A	A	Α
(5)	石鎚山脈北縁西部ー伊予灘の地震 (8.0)	7	67	Α	Α	Α	Α	Α

【PL値と液状化危険度の関係】

30.0 < PL : 液状化危険度は極めて高い 15.0 < PL ≤ 30.0 : 液状化危険度はかなり高い

5.0 < PL ≤ 15.0 : 液状化危険度は高い 0.0 < PL ≤ 5.0 : 液状化危険度は低い

PL=0.0 : 液状化危険度はかなり低い

【土砂災害危険度ランク】

A: 危険度が高い

B: 危険度がやや高い

C: 危険度が低い

南海トラフ巨大地震による西条市の建物被害・人的被害の想定結果

愛媛県地震被害想定H25.12.26公表

① **建物被害** 西条市全建物数:85,887棟

冬18時、強風)単位:棟

	揺れ	液状化	土砂災害	津波	火災焼失	合計
全壊棟数	14,574	1,466	12	3,890	13,191	33,132
半壊棟数	11,832	1,866	29	3,814	-	17,541

- ※ 木造建物数61,826棟、内昭和55年以前建築建物数39,124棟
- ② 人的被害 西条市人口:112,091人 ※H22国勢調査より 冬深夜、強風 単位:人

	建物倒壊	うち屋内 収容物	土砂災害	津波	火災	合計
死 者	826	47	1	2,592	230	3,648
負傷者	5,179	700	1	82	121	5,383
要救助者	2,373			49		
要搜索者				2,674		

[※] 合計数値については、小数点以下の取扱(調整)により、値が合わない場合があります。

(3) ライフライン被害

上水道		下水道		電	ל
断水人口	断水率	支障人口	支障率	停電軒数	停電率
55, 957 人	99.8 %	63,845 人	99.8 %	59, 329 人	99.8 %

固定官	配話	LPガス		
不通回線数	不通回線率	容器転倒戸数	ガス漏洩戸数	
41,317 回線	95. 3 %	1,365 戸	963 戸	

(4) 交通施設被害

道路	鉄道	港湾	漁港
被害箇所数	被害箇所数	被害箇所数	被害箇所数
23 箇所	64 箇所	53 箇所	5 箇所

条件:直後・冬18時・強風

(5) 生活支障 冬18時

避難者数		物資不足量		仮設トイレ不足量	
1 日後 (うち避難所人数) (うち要援護者数)	54, 448 人 (34, 734 人) (7, 701 人)	食糧	495, 917 食	1日後	116 基
1 週間後 (うち避難所人数) (うち要援護者数)	54, 757 人 (34, 228 人) (7, 589 人)	飲料水	488, 104 リットル	1週間後	114 基
1 ケ月後 (うち避難所人数) (うち要援護者数)	76, 145 人 (22, 844 人) (5, 065 人)	毛 布 (1人2枚)	68, 003 枚	1ヶ月後	76 基

※ 食糧と水は、被災 4~7日の合計量。1人につき1日食糧3食、飲料水3%で計算している。 18

H16 新潟県中越地震

土砂崩れ



北海道胆振東部地震による被害



北海道胆振東部地震による被害



避難勧告等について

・避難準備・高齢者等避難開始



• 避難勧告



•避難指示(緊急)

避難準備・高齢者等避難開始

発令時の状況

・要配慮者等、特に避 難行動に時間を要する 者が避難行動を開始し なければならない段階 であり、人的被害の発 生が高まった状況。

立ち退き避難が必要な住民等に求める行動

- ・避難に時間のかかる要配慮者とその支援者は立退き避難する。
- ・その他の人は立退き避難の準備を整えるとともに、以後の防災気象情報、水位情報等に注意を払い、自発的に避難を開始することが望ましい。
- ・特に、突発性が高く予測が困難な 土砂災害の危険性がある区域や急激 な水位上昇のおそれがある河川沿い では、避難準備が整い次第、当該災 害に対応した指定緊急避難場所へ立 退き避難することが強く望まれる。

避難勧告

発令時の状況

立ち退き避難が必要な住民等に求める行動

- ・予想される災害に対応した**指定緊 急避難場所へ速やかに立退き避難**す る。
- ・指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、「近隣の安全な場所」(※1)への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「屋内安全確保」(※2)を行う。
- ※1 近隣の安全な場所:指定緊急避難場所ではないが、近隣のより 安全な場所・建物等
- ※2 屋内安全確保:その時点に居る建物内において、より安全な 部屋等への移動

避難指示(緊急)

発令時の状況

- ・前兆現象の発生や、 堤防隣接地等、地域の 特殊性から、人的被害 の発生する可能性が非 常に高いと判断された 状態。
- **・人的被害が発生**した 状況。

立ち退き避難が必要な住民等に求める行動

- ・既に災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況となっており、未だ**避難していない人**は、予想される災害に対応した**指定緊急避難場所へ緊急に避難**する。
- ・指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、「近隣の安全な場所」(※1)への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、「屋内安全確保」(※2)を行う。

【土砂災害などの避難基準】

避難準備·高 齢者等避難開 始	
避難勧告	・土砂災害警戒情報発表後の1時間後においても、雨量等が予測どおりに推移しているとき・近隣で前兆現象(渓流付近で斜面崩壊、斜面のはらみ、
避難指示(緊急)	・"危険基準線CL"を越えたとき ・土砂災害が発生したとき ・近隣で土砂移動現象、前兆現象(山鳴り、流木の流出、 斜面の亀裂など)が確認されたとき

※ 避難準備情報、避難勧告、避難指示の発令については、大雨時の避難そのものにも危険が伴うことを考慮し、台風等による豪雨や暴風の襲来が予想される場合には十分早期に発令するなど、渓流・斜面の状況や気象状況等も含め総合的に判断する。

避難勧告等の情報伝達

· 防災行政無線、集会所IP放送

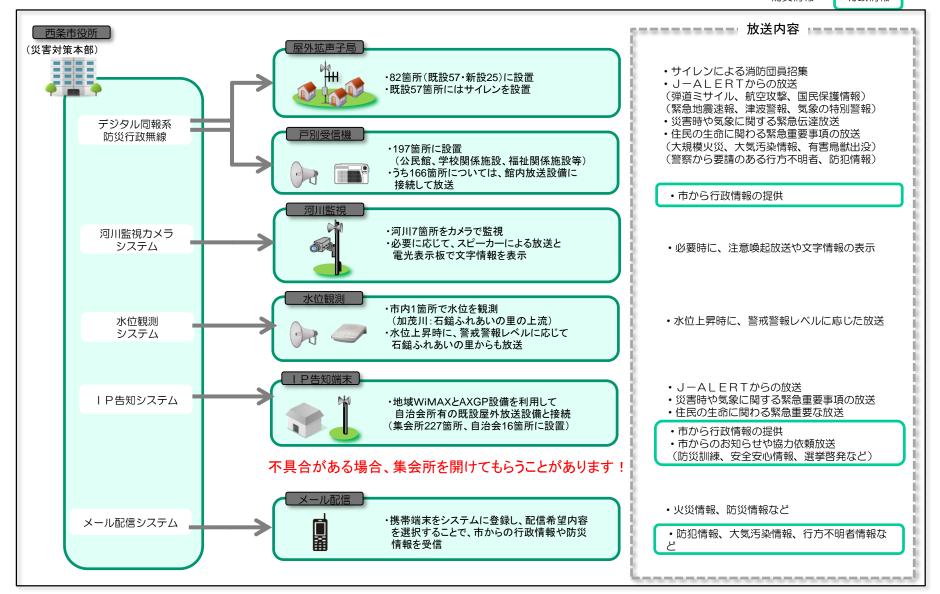
屋外拡声子局(兎之山、浦山、上の原、千野々) 集会所の放送(兎之山、大保木、西之川) 戸別受信機(公民館)

- ・自治会長等への連絡(衛星携帯電話)
- ・消防車両等でのサイレン、半鐘
- ・携帯電話等へのメール配信
- テレビ等のテロップ

防災情報の伝達イメージ

防災情報

行政情報





「自助」のみでは限界がある 自分たちの町は、自分たちで守る!

「隣近所の力の方があてになる(即応性)」 共助の基本的な姿は、自主防災組織

一人の百人力より、百人の一人力

阪神・淡路大震災の重要な教訓

コミュニティの重要性

救助活動に当たった際、どこに、誰がいるかわからない

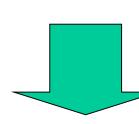
近所付き合いがない・・・情報が入らない

2 助け合いの必要性

震災直後の救出・救助活動

3 普段の意識(備えの大切さ)

地震に対する備えがなかった(神戸で地震が起こるとはおもっていない)



教訓を活かそう

人、一人助けるのに10人の力が必要

スーパーマンでもない限り、一人では助けられない

隣近所の助け合いがないと、救助活動、避難所生活はできない



地域との交流及び訓練への参加

できるだけ地域(近所・町内会等)との交流を持つ(顔なじみを作る) 地域の防災訓練には、できる限り参加することが大事

- □ 災害は、予告なしに突然発生する。
- □ 初動時の現場の情報がゼロである。
- □ 規模が急速に拡大し、状況が刻々変化する。
- □ **付近の人はパニック状態**に陥っている。
- □ 人命の危険を伴い、二次災害の発生危険がある。

このような状況では・・・

- ◎ 普段やっていることしかできない
- ◎ 普段やっていることも満足にできない
- ◎ 普段やっていないことは絶対にできない

それなら・・・!!



訓練で、疑似体験をする(イザに備える)家族も一緒に参加

〇避難経路の確認 〇防災手帳を持って参加 〇SOS発信用の装置を実際に使用 〇災害用伝言ダイヤルの使用法確認 〇避難所の使い勝ってなどの確認 〇近隣の人たちとのコミュニケーションを深める(自分の障害を理解してもらう)など

大保木自主防災会の活動事例



担架リレー



バケツリレー



大声競争



地域コミュニティの活用

- 公民館を拠点とした地域のつながり
- 自主防災組織、自治会等との連絡体制 の強化
- ・ 隣接する公民館等との連携強化 (体育館、運動場などの開放)

防災の心得

災害から生き抜くために大事なのは、

災害に対する

「知識」と「心構え」と「実行力」

そして、

災害大国に住んでいるという「認識」

- 災害が発生することを想定して非常持ち出し品の準備、避難場所・避難経路の確認などを!
- 台風や大雨などはテレビ・ラジオなどで気象情報を入手し、危ないと感じたら早めに避難する
- 広域に発生する災害に対しては、公的機関だけでは全てに対応できない
- 〇 公助に頼るだけでなく、自分の命は自分で守るという「自助」、

地域住民で協力して助け合う「共助」が重要!

やり続けることが大事!

自分たちのまちは、自分たちで守る



大規模災害に備えよう みんなの助け合いで